



# 東京多摩プロバスニュース

第 75 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：広報委員会 2017. 11. 1.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## ホームタウン多摩で楽しもう！

### 第 159 回 定例会

日 時：平成 29 年 9 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：関戸公民館第 2 学習室

出席者：26 名(会員数 28 名)

### 第 160 回 定例会

日 時：平成 29 年 10 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所：ザ・スクエア 3 階集会室

出席者：25 名(会員数 28 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「鈴木」姓のはなし

鈴木泰弘幹事

個人情報保護法を気にしながらも、興味本位で調べてみた。「スズキ」姓の発祥は熊野で、刈り取った後の稲藁(祭礼に使われる特別なイナホ)を積み重ねたものを「スズキ」といい、これが名前の由来という。

熊野の鈴木一族はのちに紀伊の国、藤白神社の神官となり、熊野信仰と結びついて全国に、特に東日本に広がったという。中でも三河・遠江の国に居ついた鈴木は、徳川氏に仕え江戸に下つたらしい。源平藤橘に比べてだいぶ有難みには欠けるが数では、1 位佐藤の 200 万名に次ぐ 180 万名の 2 位となっている。

思い出せば小中学校からずっと、属した団体すべてに複数の「スズキ」がいた。

今回 私の卒業名簿を広げて集計してみると、東京の小中高大の卒業生合計 3,440 名中、鈴木 83 名(総数の 2.4%)、佐藤 50 名(1.5%)となっている。また現在楽しんでいる和弓の団体(60 名)には鈴木が 3 名もいる。とにかく学校でも病院でも会社でも名字だけを呼ばれたことがなく、大体フルネームか名前を呼ばれていた。

それでは名字はいくつあるのか……残念ながら日本の公式の数は不明だが、15 万とも 20 万ともいい種類の多さでは世界有数の国のようだ。隣の韓国では 285 姓しかなく、そのうち「金」「李」「朴」「崔」の 4 姓で人口の 50%以上を占め、逆に米国は多民族国家ゆえ 100 万の姓があるという。

パソコンのデータの範囲で記すと(敬称略)、3 位 高橋、4 位 田中、5 位 渡辺、6 位 伊藤、7 位 山本、8 位 中村、9 位 小林、10 位 加藤、11 位 吉田、12 位 山田……以下に会員名を上げると、37 位 村上、44 位 西村、61 位 上田、



116 位 北村、120 位 平田、135 位 秋山、152 位 小池、162 位 永田、193 位 小西、253 位 神谷、277 位 堀内、290 位 岡野、421 位 稲田、540 位 大澤、564 位 高村、808 位 瀬尾、870 位 滝川、1085 位 増山、1368 位 古澤、1839 位 澤、2652 位 登坂、6376 位 阪東さんで、なんと倉賀野さんは 15,930 位でわずかに 340 名、18,512 位は藤寄さんでたったの 260 名と出しています。興味尽きない名字については、機会があれば今まで見聞きした難読名・珍名などもご紹介し、頭の体操をしたいと思います。

いずれにしても「鈴木」は多い、多過ぎます。

8 月 31 日、多摩市宝野公園にて開催された NHK ラジオ体操 みんなの体操会

## ◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

### 1. 幹事報告

鈴木康弘幹事

#### 1.1. 全日本プロバス協議会

常務理事会が9月26日(火)27日(水)の両日奈良市にて開催され、当クラブより中村昭夫会員が出席した。

関連記事下記参照

#### 1.2. 第2回東日本プロバス交流会

11月28日(火)八王子エルシィにて行われることとなり、当クラブより西村政晃会長以下、8名が参加する予定。

#### 1.3. 第13回多摩市中学生俳句大会(東京多摩ロータリークラブ主催)

市内9中学校から応募のあった約2,800句の中から、10月上旬第一次選考会が行われた。当クラブの俳句会が協賛の一環として選考に協力した。表彰は12月の予定。

#### 1.4. 創立15周年記念事業プロジェクト

2019年5月に創立15周年を迎えるにあたり、記念事業の企画立案を図りたい。リーダー西村政晃会長、メンバー上田清・大澤亘・北村克彦・倉賀野武士・山田正司各会員の6名。

#### 1.5. 他プロバスクラブとの交流推進(澤雄二副会長より)

日本橋PC会員の吉田氏(伊場扇社長)による卓話等の企画提案あり。

#### 1.6. 改正個人情報保護法

個人情報の取り扱い(取得・利用・保管)について勉強会を開き周知徹底を図る。

### 2. 委員会報告

#### 2.1. 総務委員会

鈴木達夫委員長

##### 1) 第159回定例会

中村昭夫会員による卓話「今思うあの戦争」(太平洋戦争)が行われた。

関連記事P3参照

##### 2) 第160回定例会

公益財団法人多摩市文化振興財団 橋場万里子氏による「小野神社の変遷」の講話を拝聴した。

関連記事P3参照

##### 3) 次回の第161回定例会

東京八王子プロバスクラブとの交換卓話として同クラブの立川富美代氏に決定した。

##### 4) 今年度の当委員会の検討事項

「個人情報保護法」について、大澤亘会員より9月の理事会で説明承認された。12月定例会で報告する。



総務委員会の皆さん

#### 2.2. 研修・親睦委員会

秋山正仁委員長

1) 10月18日(水)快晴に恵まれ、会員16名で豊かな自然と暖かい心通い合う葛飾柴又方面にマイクロバスで研修・親睦に出掛けた。

関連記事P4参照

2) 忘年会は12月6日(水)PM5:00より京王クラブの予定。

3) 研修セミナー開催を1月10日(水)の定例会で「相続・遺言」のテーマで計画中。

4) 一泊研修旅行を平成30年5月下旬から6月上旬に日光方面で計画中。

#### 2.3. 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

##### 1) パッククッキング出前講座

9月9日(土)東京土建組合多摩・稲城婦人会の会合終了後、30人の皆様に焼きそば・チキンライス・パンのパッククッキングを披露しました。皆様手作りのパイキングがあり一緒に召し上がっていただきました。私達も御馳走になり、和気あいあいの講座が出来ました。増山敏夫・藤寄喬子両会員と出向きました。次回はコミュニティセンターこぶし館とゆう桜ヶ丘の予定。

#### 2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

##### 1) プロバスニュース第75号発行

会員各位から寄稿いただき、10月23日、27日の編集会議を経て最終校正、校閲を実施、11月1日発行配布。

##### 2) ホームページのリニューアル

現システムよりメンテナンスのしやすいシステムにリニューアルすることになりました。新システムは新年オープン予定。従来システムは11月20日更新公開後に年内でクローズの予定。

## ◇◇◇ 全日本プロバス協議会理事会 ◇◇◇

### 全日本プロバス協議会理事会へ参加

中村昭夫会員

全日本プロバス協議会は全国53クラブが加入している協議会で全国を9ブロックに組織化して各ブロック代表が全日本協議会の理事を務めている組織である。9月26・27日両日にわたり全日本プロバス協議会理事会が奈良市かんぼの宿を会場として開催された。

会長・副会長・幹事長をはじめ監査役・会計・幹事のほか全国ブロック代表の理事、それに次回全国大会の開催幹事である桑名PC、地元の奈良PCなど23名が参加した。主な議題は、次回開催の全国大会・総会は30年11月28日、四日市都ホテルにて開催したいと桑名PC会長より提案があった。全理事賛成であり詳細な会議内容は三重地区5PCにて検討するとした。

その他会則の改訂の審議、来年の全国大会後に本部機能を現在の横浜から関西に移したいとの提案が出され、詳細は次回理事会で具体的内容を検討することにした。平成28年度決算も発表され、一部の修正を除いて了承された。その他協議会本部の機能強化や新規な会員を増やすなどの諸問題について意見交換がなされた。

「今思うあの戦争(太平洋戦争)」

中村昭夫会員

日本の近代史において2つの大きな改革がなされた。先ず明治維新によってそれまでの幕藩体制と士農工商という身分制度は改革され中央政府と全国に都道府県を設置するという改革がなされ、人民はすべて国民として平等に扱うことになった。もう一つの改革は太平洋戦争の終結に伴い軍国政府は崩壊し民主主義国家に変身した。今年で太平洋戦争終戦後72年経たが、毎年8月になると新聞やテレビ、雑誌などであの戦争は二度と起こしてはならないということから戦時中の忌まわしい事実が報道される。



日本は明治以降、日清戦争、日露戦争に勝利したことにより日本国内における軍部の発言力は上昇し、昭和に入ると日本政府イコール日本軍部と言われるくらい強大な権力を付け日本国政をリードしていった。そして大東亜共栄圏という構想を打ち出して太平洋戦争へと進んでいった。

戦闘員を確保するために徴兵制を敷いて国民を戦力として育成していった。軍部の戦闘員育成方針は一人一人の人間性などを無視してあくまで軍部の決めた方針に従属させる、ある意味では軍の命令に絶対的に従う戦闘の捨て石にするということである。敵国との戦争状態に入ると戦闘要員である兵士達は敵軍に対峙する最前線に配置され、軍隊

の幹部達は後方の軍司令部にて命令を出すだけで軍幹部が戦闘の最前線に立つということはまずしない。このような状況の中で戦闘に敗れても逃げることは許されず戦死を強いられたのである。しかし後方にいた軍の幹部達は戦闘が不利になるとさっさと日本に逃げ帰り戦後も生き延びていた。戦況が日本にとって不利な状況になっているにも関わらず、徹底抗戦、一億玉砕などという命令を下し一般人を含めてその生命を奪っていったのである。沖縄本土決戦などはそのよい例である。米英ソ3国首脳によるポツダム宣言が1945年2月に日本政府に送られてきたにもかかわらず軍首脳による猛反対によって見送られ、その後ソ連の参戦、広島、長崎への原爆投下によって何十万人もの国民の生命を奪ってしまった。2月のポツダム宣言を受け入れていれば何十万人もの生命は奪われずに済んだのである。日本はあの戦争によって400万人もの生命が失われた。

こうしてみると400万人もの日本人の生命を奪ったのは日本の戦争指導者たちではないかと思う。戦後、連合国は日本人の戦争責任を追及する軍事裁判を行ったが、日本人自体による戦争責任の追及は全くなされていない。ドイツでは戦後70年を過ぎた今でもナチスに対する追及を行っている。反省のない中では同じ過ちを繰り返すことがあり得る。あの戦争を主導した軍部と同じことが将来起こることもあるかもしれないという危惧を感じる。何故なら時代は変わっても同じ伝統文化・思想を持った日本人なのだから……。

「武蔵国一之宮 多摩市一ノ宮小野神社の歴史と変遷」  
(公財)多摩市文化振興財団学芸員 橋場万里子氏

多摩市一ノ宮にある小野神社は、市内で最も古い神社です。今回は、平成16年にソルテノン多摩歴史ミュージアムで行った同じタイトルの特別展をもとに小野神社について紹介をさせていただきました。



小野神社の存在は、奈良時代の宝龜3年(772)の古文書から確認できます。その名は、平安時代の『延喜式神名帳』などにも登場しており、朝廷の庇護を受けた神社でもありました。「小野神社」は府中や町田にもありますが、多摩市の小野神社境内からは平安時代の瓦が見つかっており、古くから何らかの建物があつた可能性が高い場所です。

小野神社の所在地名でもある「一宮」は、国府に赴任した国司が最初にめぐる神社という意味です。武蔵国の神社を集めた武蔵総社・六所宮(大国魂神社)には、一之宮から六之宮までが祀られ、「一之宮」は「小野大明神」のこととされています。小野神社は武蔵国府に近かつたことから、中世の「武蔵一宮」とされたのでしょう。現在、「武蔵一宮」と言えば、埼玉県さいたま市の大宮氷川神社だと思いますが、

氷川神社が武蔵一宮となつたのは近世以降ではないかと考えられます。

小野神社と武蔵国府との密接なかわりには、大国魂神社の祭礼「くらやみ祭り」でも伺い知ることができます。くらやみ祭りでは、小野神社の神輿を担いで大国魂神社近くの御旅所まで運び込む「道中神輿の渡御」が行われました。当時は、「一之宮の神輿が来ないとくらやみ祭りが始まらない」とも言われました。また、小野神社の神職たちは、くらやみ祭りの神事に参加し、重要な役割を果たしていました。

道中神輿の渡御は、昭和34年、多摩動物公園の開館による交通渋滞やくらやみ祭り自体の変化により、行われなくなります。このことは、小野神社の祭礼にも影響を与えました。小野神社の9月9日の祭りは、かつては子供が中心となる子供祭りでしたが、子供による運営の課題や、くらやみ祭りに大人神輿が参加しなくなったことなどから、大人神輿も加わる祭礼に変化し、現在では、大人神輿や大太鼓・山車などが出る大きな祭りとなっています。

このように、小野神社は古代からみられる神社で、中世の武蔵一宮であるなど、長い歴史を持つ存在です。特に武蔵国府や大国魂神社とのかわりには、色々な部分で確認できます。身近な場所にこれ程豊かな歴史を持つ場所があつたことを是非多くの方に知っていただきたいと思ひます。



◇◇◇ 委員会活動 ◇◇◇

社会見学「葛飾柴又方面」

秋山正仁会員

10月18日(水)、心配していた天気は日本晴れ。16名の会員で午前9時に出発、道中思い思いの話題に花を咲かせながら2時間かけて葛飾柴又帝釈天参道に到着した。参道の左右の土産屋を散策しながら本堂へ、欄間の彫刻等を見学した。本堂の左側の松の樹木の見事さには感動。昼食は、うなぎと言えは柴又、柴又と聞けばうなぎ料理。美味しく頂いた。

食後は山本邸の見学。和洋折衷の建物と純和風の庭園が見事に調和して素晴らしい一言だ。近くには「男はつらいよ」の記憶のすべてがある寅さん記念館。館内には映画で実際に使用した「くるまや」のセットが撮影場所から移設されていて、実物資料やジオラマ模型、懐かしの映像集などで



帝釈天参道のジオラマ模型

「男はつらいよ」の世界に浸った。

すぐ近くの山田洋次ミュージアムには9つのテーマの展示室があり、柱には「家族とはこうあってほしいという憧れのようなものです」と書かれていて、山田洋次監督の意志を反映した一言だと思った。

山田洋次ミュージアムの2階の出入口より屋上に上がると柴又公園に出られ、作品の舞台となった帝釈天や江戸川河川敷も一望できる。そこから柴又を散策すると懐かしの名シーンを追体験出来る。この公園から上流に向かったところが江戸川唯一の渡し場、矢切の渡しである。

対岸には、政夫(15才)と民子(17才)の悲しい恋の舞台となった「野菊のごとき君なりき」の野菊の墓がある。

しかし、夕方の天気が気になり「矢切の渡し」の歌碑を見学しただけで舟には乗らず早めに帰った。

帰路は渋滞もなく5時にはそれぞれ帰宅できた。



寅さんのカバンと一緒に

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

からまつ合同句会

登坂征一郎会員

9月30日、当クラブ俳句会が参加している俳句結社「からまつ」の合同句会が町田市市民ホールにて開催された。由利雪二主宰をはじめ「からまつ」傘下の9句会から当俳句会7名を含め計44名が参加。当クラブ会友の蓮池秋霜さんの司会ではじまり、参加者夫々2句の投句、計88句から4句を選句し、披講、点盛、講評と進んだ。

結果的にベテラン揃いの他句会が上位を占め、なかなかの力作ぞろいで、当句会の志水さんが一人気を吐いてベストテン内に……。他句会との交流を通して、俳句の感覚を磨くチャンスと醍醐味を味わう良い機会であった。

俳句会の活動の一環として、今回この合同句会の参加者の投句した一句の自句自解を含め、また、参加できなかった句友の当季題の私の一句を以下に掲載しました。

◆合同句会参加者の私の一句と自句自解

鳴き尽きし掌(て)の落蟬の軽さかな 倉賀野志水  
長い地中から較べたらほんの一瞬のような地上での短いのちの限り鳴き尽した、健気で潔い生き方を想う。

刈りたてのせせらぎの土手彼岸花 川久保魚水  
草刈りが終わったばかりの川の土手に、彼岸花が花束のように咲き、のどかなせせらぎが聞こえてくる。

背伸びして金木犀を手折りたり 滝川 露枝  
何処からともなく香ってくる金木犀、公園の一隅に！あたりを見回して一枝頂きました。

揺るぎなき千年杉や天高し 登坂 爽風  
幹周り3mを超える杉の大古木が澄み切った青空に端然

と聳え立つ。毅然と悠揚迫らぬ樹勢に感動！

行く秋や使いふるしの辞書ひらく 蓮池 秋霜  
雨で収穫も秋蒔き作業もできない。依頼された原稿の筆も進まず、文字までも失念。老化に苦渋の一句。

和紙ちぎるかすかな音や夜の秋 神谷 虎子  
ちぎり絵を作っている。しんと更け行く秋の夜の静寂に和紙をちぎる音が微かに響く。

嗚呼高値嗚呼小振りなお秋刀魚焼く 増山胡桃子  
秋刀魚に異変が。高くて小さい。油が乗ってないと愚痴る。それでも庶民は秋刀魚を焼き続ける。何故？

◆当季題の私の一句と自句自解

捨石の学徒虚しき敗戦忌 池田 玄海  
昭和十八年十二月一日学徒に対し召集令状が發布。最前線に布陣した大勢の学徒兵は、特攻隊として玉砕。鎮魂。

蟬しぐれ眠気をさそう般若湯 岡野 流馬  
吟行の昼食時の一杯と松林を抜けてきたそよ風。蟬の心地よいリズム。ついコクリと眠りに誘われました。

西へ行く雲を見送る鳳仙花 鈴木 透水  
鳳仙花の種子は成熟すると、果がはじけて飛び散る。西へ行く朱色の雲の美しさを鳳仙花で思う。

秋の日の一竿重き紺半纏 蓮池 光花  
日差しの強い日、亡父の印半纏の両袖を一本の竿に通す。繁盛した店は戦火で灰に。商人魂の半纏は疎開して遣った。

彼岸花来年も又会いたいね 北村 岳人  
秋に咲く彼岸花、当たり前のように眺めていたが、体のあちこちに老化を感じるこの頃、来年も無事見たいな。

1. 茶会とあれば何処へでも 阪東照子会員

東京藝大創立130周年を迎えた今年、茶道各流派家元、京都、東京の美術倶楽部、藝大茶道部他により、10月7、



茶友の森川さんと

8、14、21日と記念茶会が行われた。武者小路千家担当の14日は生憎雨模様だったが、参加者の90%が和服姿で、その心意気が見て取れた。会場は応挙館、正木記念館、大石膏室、陳列館の他、点心の吉兆大浦食堂と盛り沢山。まずは濃茶正木記念館、席主は武者小路千家。特筆すべきは天心の本!! 藝大五代目の校長の正木直彦

の功労をたたえて昭和10年に建設された館、その二階大広間の床の脇に、二代目校長岡倉天心の「The Book of Tea」の英文初版本が桃山時代の文箱に収まっていたこと。さらに群兎蒔絵文箱も天心初版本も官休庵12代愈好齋所持のお品と分かり一同感激。グリーンを表紙に金字のローマ字、これは今日参加した者だけのお宝拝見!!嬉しかった。

また、鈍翁(どんのう)好の直齋名取河写、以楽波古木の香合の蓋表の侘びの景色も深く心に残り、私は手すりのない二階への階段昇り降りに泣きそうであったが、良い物を拝見できたと感激した。

2. 多摩市文化団体連合と長野県富士見町文化協会との交流会 堀内陽二会員

去る9月30日(土)多摩市文化団体連合と富士見町文化協会との交流会、今年は私共が富士見町の皆様を東京にお迎えする番で(毎年交互に訪問し合う)30年続いています。

このような交流会に至った発端は、昭和55年多摩市が八ヶ岳少年自然の家を富士見町に建設して以降毎年、約一万五千人の多摩市民が訪れるようになり、昭和61年11月に多摩市・富士見町友好都市提携調印式が行われたことです。

昨年は友好都市締結30周年記念式典、祝賀会が富士見町で行われました。それ以降富士見町との関係は深まり多方面での交流を盛んに行っています。今回は、同時にお互いの文化祭に展示する作品(絵・書・写真)を受け渡す場でもあります。

双方貸切バスで最初の目的地西新井大師で落ち合い、総勢90名一緒にお参りしたり、記念写真を撮ったり境内を散策しました。次いで柴又へ移動し、割烹「川甚」で親睦交流昼食会をもち大いに盛り上がりました。会食後は自由行動で柴又帝釈天や、見どころ一杯の寅さんの街歩きを楽しみました。

最後の目的地は向島百花園。ここは唯一残る江戸時代の花園、都立文化財9庭園の一つです。庭園散策を終えて、富士見町の



富士見町の皆さんと

皆さんのバスを見送り、私達も多摩への帰路につきました。

3. 永山フェスティバルに出演 中村昭夫会員

多摩市主催の軽音楽の祭典である「永山フェスティバル」は本年20回を迎え9月16、17日2日間永山駅周辺の会場で行われた。軽音楽グループの出演団体は100グループになる多摩市最大の軽音楽祭である。4つの会場に分かれそれぞれのジャンルの音楽を演奏する。私の所属する多摩ダンディーズは出演者の中で最高齢者グループであり、この10年連続して出演している。

従来はポピュラーな歌謡曲・フォークソングなどを演奏してきたが、本年はこれらに加えポップス曲の「勝手にしやがれ」「ルビーの指輪」「星降る街角」などを演奏した。

平均年齢80歳を過ぎたダンディーズがポップス曲を歌うので少しは格好つけて演奏しようと思図したが、いずれにせよ高齢者であるので会場から失笑を買う



多摩ダンディーズ

かもしれないという懸念からハーモニーのみで演奏した。

終演後来場者からは絶大な拍手をもらうことができ、「とても良かった」などの賛辞をいただいたことは大きな喜びであった。

4. 「歌の会」と永島さん(会友) 小西加葉子会員

10月の「歌の会」の参加者は57名(8割以上が女性)だった。



講師の滝本さんと楽しむ

生憎の雨だったが、月一回の「歌の会」の講座を楽しみにお年寄りが集まってくる。

私が「ケボの会」を発足させたのは

1992年、会員120名で始めた。「ボケ」の反対は「ケボ」、ボケない願いを込めての造語だ。ボケないための努力をしよう!をスローガンに、思いつくまま、いろいろの事にチャレンジした。その頃の多摩はまだ若い街だった。しかし私も齢を取った。60歳になった時、私はNPOを解散し、自分のやりたいことだけを残りの人生の色取りにしたいと思ったのだ。

「ケボの会」の活動の中で今残っているのは「歌の会」と「おもちゃ病院」だ。「歌の会」は講師の先生と私の司会で20年続いている。その間九州旅行でのハプニングや、永島仁さんとの思い出が鮮明だ。ある時、講座のテーマごとの終了に大正時代の卒業式を企画した。永島さんは校長先生の役で自前のモーニングに白い手袋、私は担任の先生役で頭に大きなりボンと矢絣の着物に袴姿で尋常小学校の卒業式を再現した。その時永島さん曰く「もう着ないと思っていたモーニングを捨てないで良かった」さすが校長先生は立派でした。永島さん、あの頃は楽しかったね。



## ◇◇◇東京八王子プロバスクラブの紹介◇◇◇

近隣プロバスクラブとの交流会をはじめ、卓話やゴルフ、囲碁、俳句などの交流がなされるようになってきましたが、相互のクラブの活動に関心もたれるようになってきました。相互の関心を深めるべく近隣プロバスクラブのプロフィールを紹介させていただいております。今回は東京八王子プロバスクラブです。

東京八王子プロバスクラブは、1995年10月18日に創立、今年で22年を迎えます。先進クラブとして当東京多摩プロバスクラブをはじめ、近隣のプロバスクラブの誕生には大きな力となっていました。

八王子プロバスクラブは、地域への知的貢献、特に社会奉仕活動として、21年のキャリアを持つ「生涯学習サロン」、八王子「宇宙の学校」と地域に根差した大きな事業を展開されてきており、また、今年は八王子市制100周年を迎え、市民と密接な活動を展開されてきています。

会員数は68名で、例会をはじめ、囲碁同好会、ゴルフ同好会、お茶の会、写真同好会、ぼけない麻雀研究会、美術鑑賞会、歴史同好会、旅行同好会、俳句同好会、カラオケ同好会、フラダンス同好会、古典芸能鑑賞会などがあり、また、男声合唱団シニアダンディーズは市のイベントや福祉施設訪問演奏など多彩な活動をされています。

\*会長；武田洋一郎氏 副会長；馬場征彦氏

幹事；内山雅之氏

\*例会；毎月第2木曜日（会場；八王子エルシイ）

\*連絡先；〒192-0056 東京都八王子市追分町9-3

TEL；042-621-5552

\*例会のプログラム

- |              |       |
|--------------|-------|
| ・開会          | 例会委員長 |
| ・会長挨拶、お客様紹介  | 会長    |
| ・ハッピーコイン披露   | 副会長   |
| ・バースデーカード贈呈  | 会長    |
| ・卓話・講演       |       |
| ・幹事報告        | 幹事    |
| ・委員会活動報告     | 各委員長  |
| ・同好会活動報告     | 各同好会  |
| ・プロバスクラブ賛歌斉唱 | 例会委員  |
| ・閉会          | 副会長   |

\*会報；毎月発行

（内容；例会、幹事報告、会長スピーチ、ハッピーコイン、寄稿や同好会便り等）

\*ホームページ；

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

## ◇◇◇ わが故郷 ◇◇◇

### わが故郷<群馬>

### 倉賀野武士会員

総合ブランド研究所の調査による47都道府県別魅力度ランキングで、北関東3県は下位に低迷しており、昨年のわが故郷群馬県は45位、ブービーは栃木県、ブービーメーカーが茨城県となっている。ちなみに1位は8年連続の北海道であった。「上毛かるた」（公募により昭和22年作成）を使って私の故郷を紹介したい。

### ○ つる舞う形の群馬県

群馬の形状を鶴にたとえた古来の表現を生かし、子供たちに胸を張って堂々と羽ばたいてほしいと呼掛けている。

### ○ 裾野は長し赤城山

榛名山、妙義山と並び上毛三山の一つであり日本百名山にも選ばれている。赤城山は、黒檜山、駒ヶ岳、地蔵岳、大沼などからなる一つの大きな火山帯の名称であり、赤城名の峰は存在しない。その長い裾野の南端は関東平野に収斂している。

ここで私は生まれ育った。



妙義山の石門

### ○ 登る榛名のキャンプ村

山の姿の美しいことから榛名富士とも呼ばれている。榛名湖畔は行楽の適地で新緑・盛夏・紅葉共に良く、冬は湖上のスケートやわかさぎ釣りで賑わう。湖畔には高峰三枝子の「湖畔の宿」のメロディーがながれる歌碑がある。

### ○ 利根は坂東一の川

利根川は関東一の大河で、昔から坂東太郎として名高い。上越国境の大水上山から滴る水が、赤谷・片品・碓氷・神無・渡良瀬の支流を合わせて大河となり、満々たる水をたたえて関東平野を横切り太平洋へと注ぐ。



利根川と赤城山

### ○ 伊香保温泉日本の名湯

古く千余年前、万葉集に名を歌われた伊香保は、今も日本の温泉の王座を占めている。榛名山の中腹800mのところにあつて、北に展望が開け四季それぞれに楽しめる。

### ○ 日本で最初の富岡製糸

安政条約で日本が開港すると、生糸はいちやく輸出の花形となった。明治政府は仏人技師を招き富岡に最先端技術の機械製糸工場を建てた。昔のまま残る煉瓦造の建物は、先年ユネスコの世界遺産に登録された。

### ○ 平和の使徒新島襄

明治の宗教家・教育者。安中藩の江戸屋敷に生まれ米国で苦学し、帰朝後明治8年京都に同志社を創立し、キリスト教主義の教育に従事した。精神界と教育界へ残した足跡は偉大で、優秀な若者を輩出した。

## 青年時代からの憧れの地

### 文明交流の歴史舞台に立って 澤雄二会員

いよいよ兵馬俑の兵士たちに会える。朝から落ち着いた感じがなかった。

私が兵馬俑に取り憑つかれたのは、20代にテレビドキュメントを見たその時からだ。なぜかあの兵士たちに強く惹きつけられた。その理由が分かったのは今回の視察直前だった。

座右の書であり、大好きな本の一冊に「夢を掘り当てた人」がある。トロイの遺跡を発見・発掘したハインリッヒ・シュリーマンの伝記である。彼は少年時代に読んだホメロスの長編叙事詩「イリアス」に出てくる都市国家トロイを神話ではなく、なんと実在すると確信するのである。貿易商として財を成した彼は、その資産でトロイを探し求め、遂には“夢を掘り当てた”のである。中国の農民が偶然掘り当て、二千年の眠りから目覚めた兵馬俑のロマンは私にとっての“トロイ”だったのかも知れない。

博物館前の広大な敷地に秦の始皇帝の真っ白い巨大な像が立ち、遠目にもはっきりとそれを認識できた。兵士たちと対面した時、興奮というよりも静かな感動だった。



兵馬俑博物館 一号坑

持参したオペラグラスで兵士たちの顔を見た。一人一人違う髪型、身につけた衣服や履物も様々。笑う兵士、驕った表情の兵士、口髭や顎鬚の兵士がいる。子供のような兵士もいた。階級も将軍から歩兵までいる。八千体と言われる兵士たちはすべて個性を持っており、夫々作者の名前が彫られている。

「何故、話しかけてこないのか」暑く汗が出る大混雑の中で不思議なリアル感を覚えた出会だった。

死後の始皇帝を守るために作られた兵士たち。しかしその帝国

は死後 15 年で崩壊する。トロイも木馬に潜んでいた兵士たちによって滅ぼされる。人間の宿命と悠久を感じたひと時だった。翌日、いよいよ敦煌へ。



兵馬俑博物館 二号坑

敦煌とは「大きく(敦)輝く(煌)」という意味だ。まさに絹の道シルクロードの要衝として東西文明の交流に果たした役割は大きく輝いている。文化の融合と共に新しい文化を生み出す大動脈だったからだ。また、仏法東漸の中継点であり、中国仏教の揺籃の地でもあった。

市街地を抜けると砂漠の中の一本道を走る。遥かに莫高窟が望めるようになるとシルクロードを進む旅人の心境になってきた。

莫高窟は世界で最も重要な仏教遺跡の一つである。五胡十六国の時代から隋・唐・五代・宋・元と砂漠の中の断崖絶壁での窟造は千年に亘って続き、確認されている石窟の数は734窟に上る。

そこに夥しい数の壁画や塑像が残っている。莫高窟それ自体が民族の興亡の移り変わりや文化交流の歴史が集約された一大博物館であり、仏教美術の宝庫なのである。

最初に96窟大仏殿に入った。35.5mの大仏の大きさに驚嘆(奈良の大仏は19m)。この狭い石窟でどのように造営したのだろうか。顔立ちは豊艶で切れ長の目に小さな口、波状文頭髪など、典型的な初期唐様式である。入口に立つ木造の九層楼は高さ45mで莫高窟のシンボルである。

次に57窟。初唐の代表的な石窟。20体の美しい菩薩が描かれ、美人祠ともいわれる。一番優美な観音像は、自然で流暢な線でいきいきとした姿で唐代の観音菩薩の中で最も精巧な作品である。

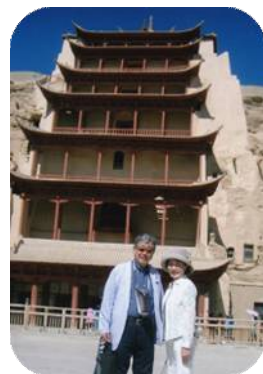
45窟。釈迦如来・迦葉・阿難など七尊像が祀られている。たおやかで美しい菩薩はいずれも頭髪を高く結び、やや腰を捻る三曲法を示し、半裸の上半身に装身具を付け華麗な裾を着ける。盛唐塑像の最高傑作と評価され、平山郁夫画伯は「敦煌の恋人」と名付けた。また、天井には釈迦・多宝二仏並坐の説法図が描かれている。

最後に蔵経洞として知られる17窟を訪れた。ここは1900年に発見され「敦煌文書」と言われ、4世紀から11世紀までの仏典など古文書や文物芸術品5万点が秘蔵されていた。現在の価値にすると天文学的数字とされる。これらのほとんどが海外に持ち去られ、現在は大英博物館やフランス国立図書館などに収蔵されている。

莫高窟の優れた仏像や壁画はほとんどが無銘であり、東西文化が融合した民衆芸術の宝庫でもあった。



断崖絶壁の石窟



九層楼と筆者夫妻



◇◇◇ 私のシャッターチャンス(2) ◇◇◇

海霧(ウミギリ)を衝いて出航する漁船

平田哲郎会員

このスナップは、私の故郷に近い瀬戸内の漁港で偶然に撮影できた海霧(ウミギリ)の一枚である。

年を追うごとに、故郷の瀬戸内の風景が懐かしく思えるこの日も、早朝4時前からレンタカーを駆り三原市郊外の名勝“筆影山(311m)”に登り、黒々と横たわる夜明け前の瀬戸内の多島美を堪能し、折からの日の出を横に見ながら下山したとき、突然、海岸の漁港で瀬戸内特有の海霧の発生に遭遇した。生まれて初めてみる海霧の湧き上がる巨大な霧の塊に、山も、海も、島もそして上りかけた太陽を音もなく呑み込む海の大スペクタクルに一瞬呆然となった。

気を取り直し、視界も不良の暗赤色の巨大な霧の壁に突っ込んでゆく勇壮な漁船の後姿に心惹かれシャッターを押した一枚である。なお、この漁船の行く手に、ほの赤く染まっている山頂は尾道の千光寺あたりと思われる。



◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

○(あいさつ)鈴木泰弘幹事の姓のはなし、興味湧いて調べ出したとあるが、その根気がスゴイ!! しかも会員全員を調べた友情愛情、有難くクラブの絆、強くなったと感じた。文の終りの「鈴木は多い、多過ぎます」の件は、日頃滅多に笑わぬ人でも、頬が緩んだ事と思う。多過ぎるといったって、減らす事も出来ないのにと。この件ユーモラスに言う人柄が明るい。○(社会見学)写真のカバンの横の上田会員、ブレザーの色と手の置き方、寅さんのポーズ?○(からまつ句会)志水さんの「掌の蝉」、諸行無常を五七五に収めた見事さ、正面から命と向き合う純粹さ、心が若い。○(歌の会)会友の永島仁さんに触れた文懐かしく温かい。お元気でられる事を願う。○(シャッターチャンス(2))海霧はプリントされても、幻想的な光景。出会(でくわ)した昂奮は文中から読み取れるが、何とかそのスケールの大きな自然界の美しさを、読む人を感じて欲しいとレイアウトしました。暫く見詰めて下さい。○会員各位の協力あればこそ充実した第75号をお届けする事が出来ました。今後よろしく。

江戸時代は季語でなかった秋刀魚。胡桃子さんの句に促されて浮かびました。

小さくてもサンマ祭りの列長し 浮草  
TVの参加者の様子、焼けるのを待って並んでいました。  
秋刀魚焼く家の隣も秋刀魚焼く 浮草  
家々の換気扇から煙の香。

(広報委員 阪東熙子記)

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

1. 9月誕生日を迎えられました!



左から秋山正仁・鈴木達夫・登坂征一郎・増山敏夫各会員

2. 10月誕生日を迎えられました!



左から藤崎喬子会員・中村昭夫会員